

## 米国 生産は広がりを持った拡大(06年6月鉱工業生産)

発表日：06年7月17日(月)

～製造業の好調持続～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : [sei\\_ji@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:sei_ji@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

### 鉱工業生産 (Industrial Production and Capacity Utilization)

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	設備稼働率	製造業 (NAICS)	生産能力
	前月比	前年同月比									
05/06	+0.8	(+3.7)	+0.4	+0.9	+5.2	+1.0	+0.2	+2.4	+80.3	+78.2	+0.1
05/07	▲0.0	(+3.1)	+0.2	▲1.0	▲0.1	+2.2	+0.1	▲2.0	+80.2	+78.2	+0.1
05/08	+0.3	(+3.1)	+0.4	▲0.6	+0.3	+3.0	+0.2	+3.6	+80.3	+78.4	+0.1
05/09	▲1.3	(+2.0)	▲0.5	▲9.0	▲0.3	+1.6	▲0.5	+2.8	+79.1	+77.8	+0.1
05/10	+1.1	(+2.4)	+1.8	▲1.3	▲2.0	+1.0	+1.9	▲0.0	+79.9	+79.1	+0.1
05/11	+0.9	(+3.2)	+0.8	+4.5	▲1.0	+3.7	+0.4	▲4.6	+80.5	+79.6	+0.1
05/12	+1.0	(+3.5)	+0.4	+2.6	+4.2	+1.6	+0.4	▲1.3	+81.1	+79.7	+0.1
06/01	▲0.1	(+3.2)	+0.9	+2.3	▲10.0	+0.1	+0.9	+2.6	+80.9	+80.2	+0.2
06/02	+0.4	(+3.1)	▲0.2	+0.7	+5.7	+1.2	▲0.3	▲0.9	+81.1	+79.9	+0.2
06/03	+0.5	(+3.7)	+0.4	▲0.1	+1.7	+1.0	+0.3	+1.5	+81.3	+80.0	+0.2
06/04	+0.8	(+4.6)	+0.8	+1.4	+0.3	+1.6	+0.8	▲0.3	+81.9	+80.5	+0.2
06/05	+0.1	(+4.5)	+0.1	+0.3	+0.2	+2.0	▲0.2	▲1.3	+81.8	+80.4	+0.2
06/06	+0.8	(+4.5)	+0.7	+1.2	+0.7	+1.1	+0.7	+3.3	+82.4	+80.8	+0.2

(出所) FRB

(注) 数字は前月比、但しカッコ内は前年同月比。

### 鉱工業生産は前月比 +0.8%と市場予想を 上回った

06年6月の鉱工業生産は前月比+0.8%とプラス幅が拡大し、市場予想の同+0.5%を上回った。5月分も同▲0.1%から同+0.1%に上方改定された。製造業、鉱業、公益のすべてが加速した。世界的に企業部門の活動が活発化しているなかで、生産は広がりを伴って拡大している。3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では+6.6%と前月の+5.2%から加速し高い伸びを維持しており、生産は好調を継続している。四半期では、4～6月期に前期比+1.6%（1～3月期同+1.3%）と加速した。

製造業は、自動車、一般機械、ハイテク、航空機等の拡大により前月比+0.7%と加速した。3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも+5.3%（前月+4.6%）と高い伸びを維持しており、製造業の堅調が継続していると判断される。四半期では、4～6月期に前期比+1.3%（1～3月期同+1.4%）と同程度のペースを維持した。

稼働率は、生産能力が前月比+0.2%と拡大したものの、生産が同+0.8%となったため82.4%と市場予想を上回った。製造業稼働率も80.8%と前月から上昇した。

### 拡大した製造業生産 は19業種中15業種 に増加

業種別にみると、鉱業は強い需要によって、前月比+1.2%と高い伸びが持続した。公益は、天然ガスが同+0.7%と鈍化した一方、気温の上昇に伴い電力が同+0.7%と増加に転じたため、全体でも同+0.7%と加速した。

製造業は、前月比+0.7%と加速した。拡大した業種数が19業種中15業種と広がりを伴った拡大となっている。セクター別にみると、自動車関連の生産は、自動車部品が前月比+1.4%、完成車が同+5.5%と増加に転じたため、同+3.3%と3ヵ月ぶりに拡大した。一方、堅調が継続しているハイテク関連は、半導体が同+1.2%、通信機器が同

+1.0%、コンピューターが同+0.5%と減速したことにより同+1.1%（前月同+2.0%）と拡大ペースが鈍化した。もともと、基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも+18.8%（前月月同+15.3%）と高い伸びを維持しており好調が持続していると判断される。

加えて、航空機部門の生産は前月比+0.7%、前年同月比+13.2%と好調に推移している。受注残の大きさから当面この部門の生産は、好調を維持するとみられ生産全体を下支えしよう。

### 製造業生産は06年7～9月期以降緩やかなペースで減速する公算

目先、製造業生産はISM製造業景気指数の生産DIが6月に前月から2.1ポイント低下し、拡大した業種数も12業種（前月13業種）に減少したため、製造業生産（FRBベース）は基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で7月に拡大ペースが減速すると予想される（下記左側のグラフ）。

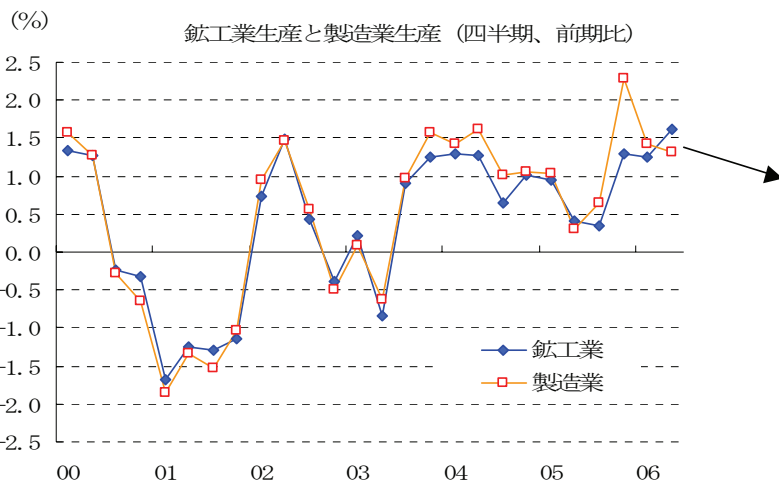
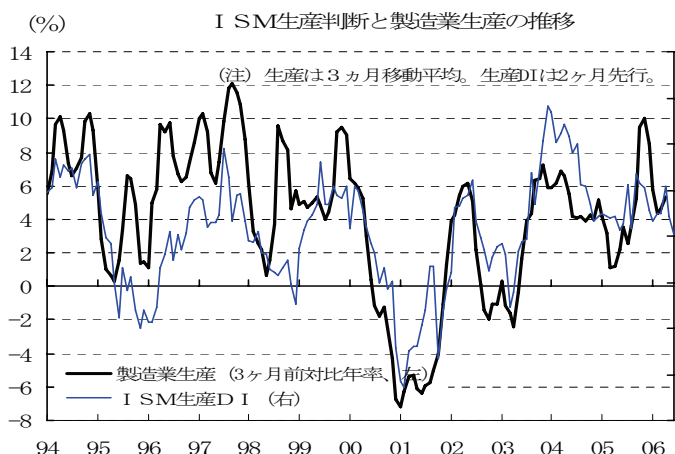
今後の需要動向では、7～9月期の個人消費は雇用・所得の増加が続くなか、住宅部門からの資金調達の拡大ペース鈍化やガソリン価格の上昇等により前期比年率+3%の安定的な拡大ペースになると見込まれる。一方、住宅投資は、金利上昇の影響で減少が続くと予想される。

設備投資は堅調なペースでの成長持続によって期待収益率が高い水準を維持するもと、①コスト削減圧力の強まりによる効率化投資需要の高まり、②稼働率の上昇、③オフィスビル空室率の低下、④コンピューターの更新投資、⑤規制緩和に伴う通信業での光ファイバー投資計画の増加等によって投資需要は強く、設備投資は当面堅調さを維持するとみられる。輸出は、海外景気の拡大ペース加速によって堅調さを維持すると見込まれる。このような需要のもと、4～6月期に増加した自動車在庫の減少が予想されることから、7～9月期に在庫の拡大ペースが鈍化すると予想される。

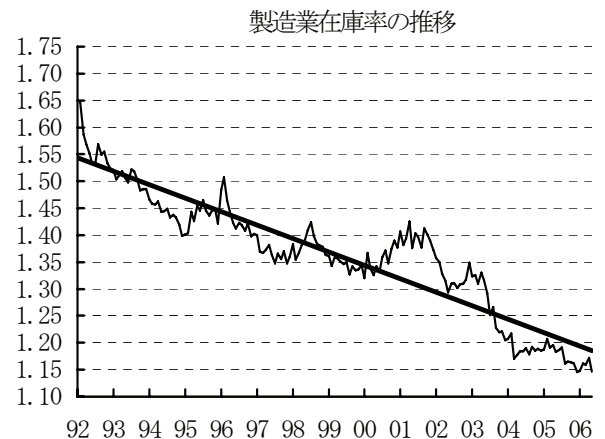
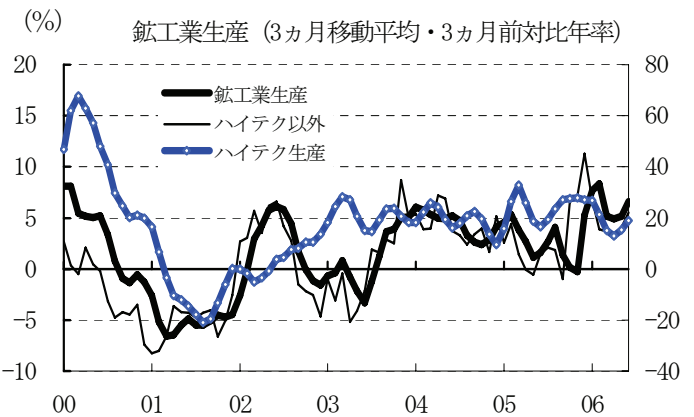
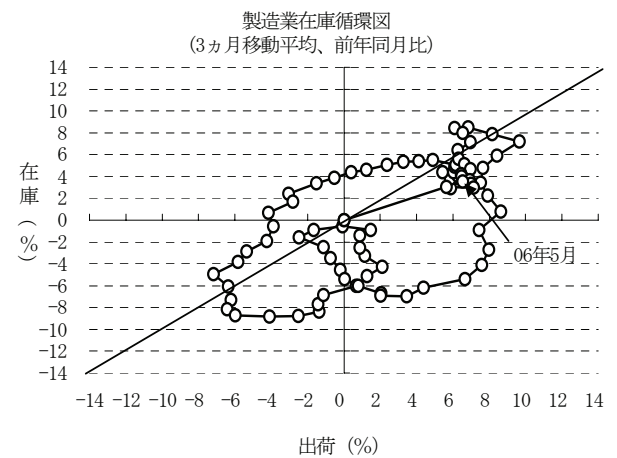
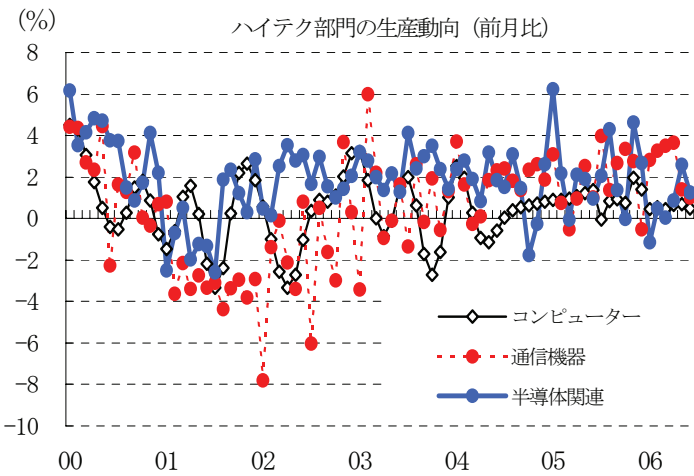
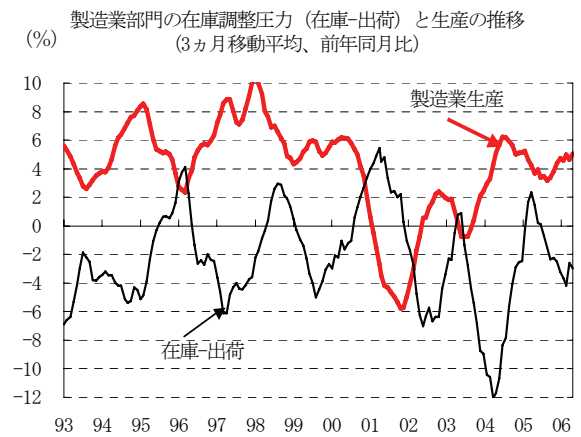
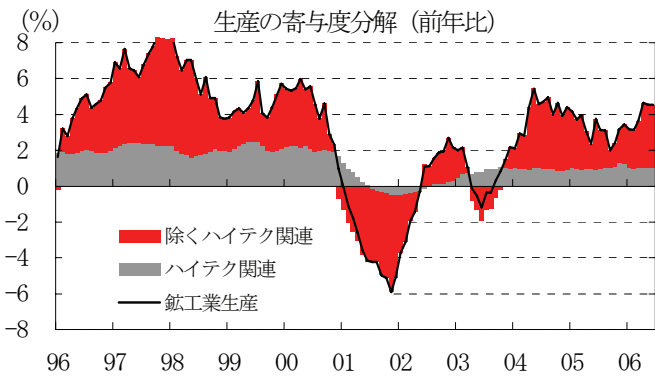
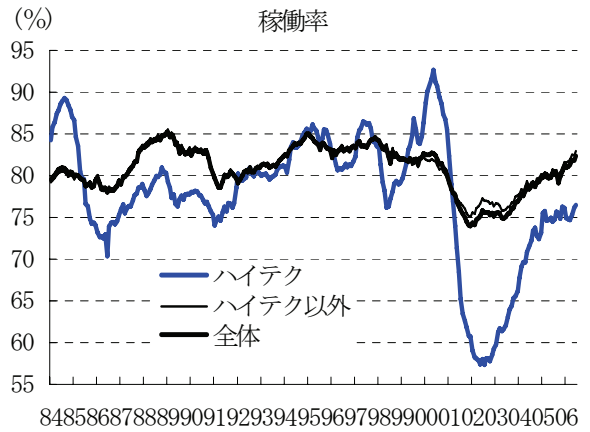
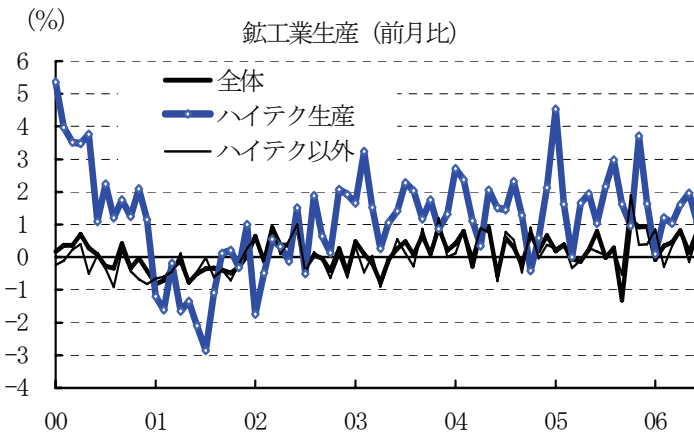
以上のような需要の動向を勘案すると、生産の拡大ペースは堅調さを維持するものの緩やかに減速する公算が大きい（下記右側のグラフ）。

### 製造業生産は前年比では9月頃にピークをつける可能性

また、在庫調整圧力（3ヵ月移動平均・前年同月比の在庫から出荷の伸び率を引いたもの）をみると、3月に▲4.2%とボトムをつけマイナス幅を縮小している（P3右側の上から2番目のグラフ）。このピーク、ボトムは、製造業生産（3ヵ月移動平均・前年同月比）のボトム、ピークに1～6ヵ月先行することから、製造業生産は遅くとも9月には前年比でピークアウトするとみられる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。